



# 西金沢学園だより

～地域と保護者の皆様へ～

令和6年2月29日

NO.12(80号)

横浜市立義務教育学校

西金沢学園

〒236-0046 金沢区釜利谷西四丁目 19 番 1 号

【本校舎】電話 045-784-0921

【分校舎】電話 045-782-7577

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/nishikanazawa/>

## たくましく人生を歩んでいくために

副校長 梶ヶ谷 朋恵

1年間の締めくくりを目の前に控え、西金沢学園では様々な行事や取組が見られた1か月でした。2月17日(土)には前期課程の土曜授業参観があり、4年生の「10歳を祝う会」、6年生の「ありがとうの会」が行われました。それぞれ小学生時代の節目を感じさせる行事で、家庭では見られない子どもたちの成長を感じていただけたのではないのでしょうか。他学年の様子を見ても、子どもたちは、新年度が始まった4月当初と比べ、何回りも心も身体も成長しているように感じます。小学生時代の1年は、大人になってからの1年よりもずっと濃密で大切な時間なのかもしれません。

1月末からは後期課程も、成長を感じさせる行事が続きました。7年生での職業講話や8年生の職場体験は、中学生のキャリア教育の一環として、価値のある取組だったと思います。どちらも地域の大人とのコミュニケーションを通して「はたらくこと」や「仕事とは?」という大きなテーマについて、リアルな言葉を聞いたり、実際に体験したりすることができました。話を聞いたり体験したりした職業そのものに、関心をもった生徒もいたかもしれません。それ以上に「社会に出て仕事をするということ」「大人の“仕事”に対する思いや考え方」などに触れ、自分たちのこれからの人生を考えるのに大きな刺激になっていることと思います。そして9年生は、義務教育の修了を目前に、人生の節目の一つとなるであろう就職や進学を真剣に考え、家族や周りの人の意見もしっかり聞きながら、進路選択をしてきた1か月でした。次のステージには多くの場合、試験や選考があり、それぞれが大きな挑戦に臨みました。選考の結果は、必ずしも第一希望の通りではないかもしれません。それでも皆さんが自分の人生の節目で、ありのままの自分を振り返り、今後歩んでいくために真剣に進む道を考え、努力をしたことは決して無駄ではありません。そんなときに周りで支えてくれた家族や先生、お互いに励ましあった友人たちの存在にも気づかされる一か月であり、その意味で学校という場が大切な場所であったならば、とてもうれしく思います。

そんな人生の節目を感じられる季節になると、いつも皆さんに「たくましく人生を歩んでほしい」という思いを強くもちます。そして自分自身のこれからの人生を考える一時でもあります。毎年の学園だよりと同じ話を書いており、今回が3回目になりますが、舞台好きな友人に教わった人生を考えたときの言葉、「ここまでで第〇幕。休憩を挟んで、次は第〇幕!」人生が第何幕まで用意されているかはわかりませんが(私自身は30幕くらいあると思っています)、良い時はさらに張り切って臨むための言葉、悪い時は「これは、次のストーリーを盛り上げるための序章」と前を向くための言葉として、皆さんに贈ります。西金沢での9年間を終えると、そこからは自分の意思で人生を切り開いていかなければなりません。つらいことや、今まで経験したことのないようなしんどい場面に出会うこともあるかもしれません。自分の人生を舞台に例えて、「ああ予想外だけど、今度はそう来たか」「次の第〇幕ではどんなことが起こるかな?」「さて次は切り替えてこんなことやってみるか」と自分の人生の舞台を、面白がつくってほしいなあと思います。